

飛行上陸 代替間天普

地元説明「必要なし」

衆院安保委 防衛政策局長が明言

【東京】防衛省の金沢博範防衛政策局長は十六日の衆院安全保障委員会で、普天間飛行場代替施設を使用する米軍機が陸上空を飛行する可能性について、緊急事態や訓練の形態など「例外的場合はあり得る」との認識を重ねて示した。その上で「緊急時であれ、何であれ基本的には飛ばない。例外的に飛ばす場合はどういふ場合か（地元）細かく考えてレク（説明）する」とは今の段階で必要ないし、してもいい」と述べ、陸上を飛ばす「例外的な場合」について地元の説明する必要はない、との考えを示した。辻元清美氏（社民）への答弁。

七日の普天間飛行場移設措置協議会で移設先の地元、宜野座村の東肇村長が住宅地上空飛行の可

能性に触れ「地域は不安が情報提示を要求してい

を抱いている」「必要なる中で、説明の必要性を

情報を明らかにしてほし否定した政府発言に反発

の声を上げりそうだ。

一方、石破茂防衛相は

「地元にはしっかり説明

すべきだと思うがどう

か」との質問に「（陸上

上空を飛行する『例外的な場合』の具体的な）中身は何なのか、現地の方々の不安を払拭するよ

うな説明は丁寧にしな

ればいけない」と述べた。

金沢局長は「V字形（滑走路）案は地元の要

望を受けて基本的に飛ば

ないということで作った

のが重要だ」と述べ、陸

上の上空を飛行するのは

「ごく例外的なことだ」と

強調。「例えば事故の

ときに飛ばすとか、そう

いふ細かいことまでわざわざ、例外的な場合を全部

列挙して（地元などに）

説明する必要はないとい

う考えだ」との認識を示

した。

が影